



指導主事だより

なんだかうれしい

教育委員会

相談時間等

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話0267-56-3131 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話0267-56-1076 (呼)
- 立科町児童館/
午前11時50分～午後1時40分
電話0267-56-0248 (呼)

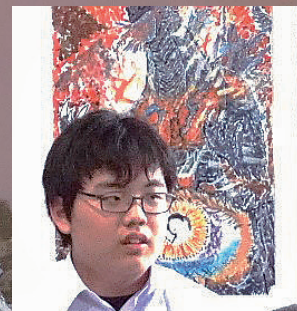
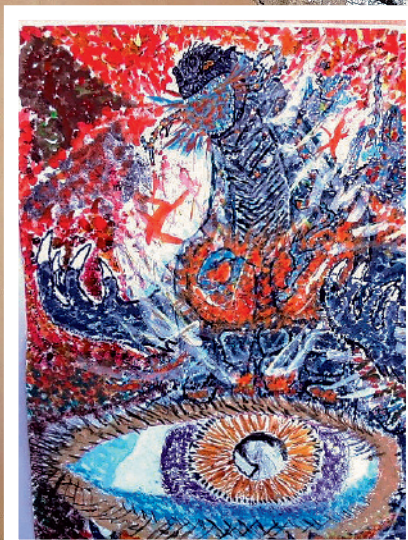
(担当 指導主事 中島一彦)

中学生の学び(探究)の成果を小学生に届ける！

「ゴジラの社会に与えた力」をテーマに探究し続けた中学三年生寺崎裕一朗君、14歳。探究の歩みの中で、絵画や彫塑にも挑み続けています。会場に彼がこれまで制作してきた多くの作品が持ち込まれました。それら作品群を前に、裕一朗君が小学生、教師たちに、自らの学びの一端を語ってくれました。

- 興行収入や社会情勢とつなげたゴジラ人気の推移
- 年度ごとの集客数のグラフからの考察
- 映画作成に関わる人々の言葉
 - ・・・様々な資料を持ち込み、考察をしていく探究力に圧倒されました。
- つぶやきや質問に、的確かつ具体的に応じる取り組みの奥深さ
- 子どもたちや先生方の質問ひとつひとつに丁寧に対応する誠実さ
 - ・・・様々な企画展にも足を運び続け、実際の出来事に触れ、学びを広げていく意欲にも強く心を動かされます。

裕一朗君の語りを聞きながら「幸せ」という言葉を思い続けました。「幸せ」の言葉が、満たされ、柔らかさを感じる反面、なかなか近寄りたくない、自分とは距離があるように感じることもあります。その違和感を思い出したのは、「今は幸せ」と語る裕一朗君の背景に、たくさんの格闘がみえてきたからです。



掲載の彫塑・絵画共
立科中学校 3年
寺崎 裕一朗 作 (2026) ※現在は高校一年生

発表の後半、「苦しみや悩みもありました」「学校に行きたいけれど、行けない・・・」と静かに語り始めた裕一朗君。戸惑い、つまづきながらも、作品に、暮らしに向かい続けてきた日々が、そこにありました。

裕一朗君が自らの心と対話し、ときには、あたふたとよめくような思いも抱えながら、作品のひとつひとつに心の声を反映させ、作品からの声に耳を傾け、創り上げていく。自分で分かっている人生を歩み続けようとするからこそ、生まれ出る戸惑いや悩み。

発表会の最後に、「家族や友の存在に支えられながらの自分」を語ってくれました。自分が根ざしている場所を探し当てたように思えたのです。

思い悩みから問いを生み出し、問いと共に生き続ける日々。そういう様々を「今の自分は幸せ」と語る裕一朗君。誰かの言葉ではない自分自身でつかんだ幸せ。

これからもたくさんの葛藤をかみしめながら、豊かな生き方を求めようとする自分探しの旅路に向かっていこう。表面的な「幸せ」という言葉に簡単に自分を重ねないように。みんなが満足しても、自分が満足できなかったり、違和感を覚えたり、意味が分からなかったり。そこから考えてみよう。みんなにぶつけてみよう。

今日の君の話にたくさんの子どもたちや大人たちが、自分自身との対話を深め、元気ももらっていましたよ。ありがとう。